

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	「都市機能の維持・回復のための調査・研究」 研究監視委員会		主 査 名：緑川 光正 就任年月：2016 年 6 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (構造本委員会直属)		委員長名：緑川 光正
設 置 期 間	2016 年 4 月～2017 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本研究監視委員会は、京都大学が文科省開発局研究委託費を受けて実施する「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト：②都市機能の維持・回復のための調査・研究」に関する研究監視を行うため、京都大学の委託を受けて日本建築学会構造委員会の直属小委員会として設置されたものである。</p> <p>具体的には、本調査研究のテーマである、①高層建物の崩壊余裕度定量化に関する研究開発、②建物の健全度モニタリングに関する研究開発、③地盤-基礎-建物系の応答評価とモニタリングに関する研究開発、等につき、研究開発の成果の最大化を図るべく、研究の方針と進捗、成果の展開、国際研究社会との連携等において、本プロジェクトを監視するとともに適切な助言を与えることを目的としている。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 主査 緑川光正 (北海道大学) 幹事 北村春幸 (東京理科大学) 委員 伊藤 優 (株日本設計)、金箱温春 (金箱構造設計事務所)、壁谷澤寿海 (東京大学地震研究所)、杉山義孝 (日本建築設備・昇降機センター)、中井正一 (千葉大学)、西谷 章 (早稲田大学)、西山 功 (建築研究所)、福和伸夫 (名古屋大学)、翠川三郎 (東京工業大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2016 年度予算	0 (京都大学委託研究)	ホームページ公開の有無：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	研究監視委員会を 1 回開催し、今年度の調査研究実施概要と最終成果に関する報告を受け、評価を行うとともに評価報告書を作成した。また、研究成果の社会還元方策について意見交換を行った。
委員会活動の問題点・課題	<p>本年度は 5 年間にわたるプロジェクトの最終年度であった。研究監視委員会では、本プロジェクトが適切に推進され、また研究成果が効果的・効率的に推進されるため、様々な要望や意見を提示してきた。これらを全て反映させることは困難であると思われるが、何らかのかたちで研究成果に反映され、最終成果物としての技術指針や技術評価法が都市機能の維持・回復に寄与することを期待したい。</p>